



NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail : npoheijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

第 21 回通常総会 令和 4 年度事業計画を承認

当法人は 5 月 21 日に第 21 回通常総会を開催、令和 4 年度の実業計画（理事長）が承認されました。

1. 基本方針



当会は、平城宮跡の歴史的・文化的価値の維持・保全に寄与することを基本方針に活動します。その上で、平成 30 年 3 月に開園した「平城宮跡歴史公園」の利活用に積極的に対応するため、「歴史公園

ガイド」や「平城京歴史講座」に取り組み、「朱雀門ひろば」を起点に“奈良時代を今に感じる”諸活動を引き続き進めます。特筆すべきは、1961（昭 36）年、平城宮跡における最初の本簡が発見された日「1 月 24 日」を「本簡の日」と提唱しました。これを宣揚するための文化・ガイド事業活動を行います。また、環境保全活動に努め「きれいに暮らす奈良県スタイル」事業を推進します。ホームページを充実しタイムリーな情報発信を行います。奈良文化財研究所、平城宮跡管理センターはじめ関連団体と協働して事業を推進し、平城宮跡の保存と利活用に努めて参ります。昨年 11 月に NPO 平城宮跡創立 20 周年記念事業を実施しました。本年はこれまで 20 年間の活動成果を踏まえ、新たな時代に対応する NPO 活動スタートの年とします。

2. 今年度の主な事業計画

- (1) NPO 平城宮跡会員の増加と会の経営基盤の強化に努めます。NPO 平城宮跡会員の新規加入の促進に努めるとともに、事業運営の効率化を推進します。
- (2) 環境保全活動を実施して「きれいに暮らす奈良県スタイル」事業の推進に努めます。クリーン活動、緑の保全活動、防災活動に加えて、景観保全活動にも取り組みます。
- (3) 組織の充実と人材の確保に努めます。NPO 関連事業

の拡大・多様化に積極的に取り組むための組織と人づくりに努めます。

(4) 関連団体との協働事業の推進を図ります。

(5) ホームページを拡充して情報発信します。ホームページの内容を充実して、タイムリーな情報発信に努めます。

(6) NPO 平城宮跡 20 年の活動成果を踏まえ、新たな NPO 活動の在り方を検討します。期待される NPO 活動の在り方について、奈良文化財研究所の指導を得て検討します。

「みどりの愛護」のつどいで感謝状を受賞

5 月 21 日 NPO 平城宮跡は平城宮跡の緑の保全に長年尽力した功績で斉藤鉄夫国土交通大臣から感謝状を受賞しました。また平城宮跡朱雀門ひろばでは第 33 回「みどりの愛護」のつどいでナラノヤエザクラ、梅の木、イチイガシ（鈴木浩理事長が NPO 代表で記念植樹）などが行われました。秋篠宮ご夫妻はコロナ禍のため、オンラインでご臨席されました。（編集部）



第 33 回「みどりの愛護」のつどい（朱雀門ひろば）



斉藤鉄夫国土交通大臣から感謝状

奈良時代の路シリーズ

—平城京の大路・小路—

館 野 和 己

(大阪府立近つ飛鳥博物館館長)



第21回通常総会前、90名に「奈良時代の路—平城京の大路・小路」と題し講演。

平城京の道路は七道と呼ばれるほぼ直線の

道路網がつくられ平均12m程度の幅があり両側に側溝を持っていた。これは平城京（畿内）と諸国の国府を視覚的に意識させるものでもあった。約16キロ毎に「駅路（えきろ）」と呼ばれる「うまや」が置かれていた。

和銅元年（708年）から平城京造都の大規模工事が開始され南北を直線的に走る下ツ道を拡張して朱雀大路とし、さらにその中心軸に乗る形で天皇権力の象徴的な施設である大極殿、高御座が乗り天皇が中心点に位置する形で平城京の都市計画が造られた。また元明天皇の詔には「秋収を待ちて後、路橋を造るべし」と秋の収穫を待って造京工事を行うようにと農民の収穫時期に配慮している。

平城京は東上部に「外京」と呼ばれる張り出し部を持ち、右京最北部には「北辺坊」と呼ばれる区域が存在する。また最南部には十条が存在していたが740年頃には九条までに縮小された。条坊道路の設計と規模は小路の計画線を引き、その両側に幅をとって道路敷とし、条坊道路の両側には側溝を掘った。一区画が532m四方で、周りを大路で囲まれた部分を坊と呼び一坊は更に133mごとに線を引き基盤目状にし16の坪から構成された。朱雀大路は幅74mの巨大なもので国家の威信を示すものであった。外国使節は羅城門から朱雀大路を北上する。両側には柳の街路樹が植えられ、また縁起の良い樹とされる槐（えんじゅ）も植えられていた。朱雀門前の両側、左右京三条一坊一坪には築地塀が無く広場となっており、門前が歌垣を含む儀礼空間として使われていた。一条南大路は佐保路と言う固有名詞で呼ばれていた。その南の三条で東西小路が朱雀大路の側溝を渡るべきところに橋の遺構が見つかっておらず、朱雀門に近づくにつれて朱雀大路には出られない設計だったと思われる。更に朱雀大路に面した宅門は三位以上の貴族のみだった。夜間通行

も禁止され火を焚き衛府の兵が大路で警備にあたった。6月と12月の末日に、万民の罪、穢れをはらい清めるための大祓式が朱雀門と壬生門の間で行われた。また、鎮火祭などの道教的な祭祀も同日に行われていた。

(編集部)

平城宮跡歴史文化講座(次回)

9月17日 寺崎保広（奈良大学名誉教授）

1月21日 市 大樹（大阪大学大学院文学研究科教授）

天平祭

5月3日～5日の**拓本づくり**は92名でこれまでのもののづくり体験で最高記録となりました。また、古代のすごろくを復元した“**かりうち**”もこれは面白いと大盛況で今後が期待されます。（文化・ガイド部会）



樹木の剪定 - NPO 平城宮跡に期待 -



サポートを続けています。

令和4年は平城宮跡が、史跡指定（大正11年）から100年目となります。NPO 平城宮跡緑の保全部会は、20年にわたり、樹木の剪定や草刈りなど、平城宮跡の

(緑の保全部会)

新役員のご挨拶



理事に選任いただきました**岸本康興**です。平城京とその時代に生きた人々のことを、もっと知りたい、伝えたいと思い入会しました。まだまだ日も浅く、勉強させていただく事ばかりですが、平城宮跡を守り、その魅力を発信することに微力ながらお役に立ちたいと考えています。どうかよろしくお願いします。（岸本康興）

好評 平城京 歴史講座

村田裕介さん(元興寺文化財研究所研究員)が、4月9日94名に「菅原遺跡の調査概要—奈良時代の円堂遺構」と題し、講演。



円堂遺構は一般的に供養塔で興福寺北円堂は藤原不比等で元明上皇・元正上皇が長屋王に命じて建立、南円堂は藤原内麻呂で藤原冬嗣、栄山寺八角堂は藤原武智麻呂で藤原仲麻呂、法隆寺夢殿は聖徳太子で僧都行信がそれぞれ建立したとされている。菅原遺跡は平城宮跡を挟んで東大寺に対する西側の丘陵地に位置し、行基(749年没)の供養塔とされ、『行基年譜』に長岡院(円堂)は菅原寺の西の岡にありとされている。

2020年の発掘調査では750年以降から半世紀の多数の瓦と、ほぼ等間隔で円形に並ぶ15基(推定16基)の柱穴、内側は石材抜き取り痕と考えられる不整形な土抗を検出した。平城京寺院の円堂建物の復元案を示していただいた。(編集部)

田中いづみさん(NPO会員)が5月14日90名に「東大寺転害門をくぐってみれば」と題し講演。



創建当時の姿で佇み三間一戸の堂々たる八脚門で国宝。転害門の名前のいわれには諸説あり、平安時代の大江親道の巡礼記録に東大寺境内の講堂の北東部にあった食堂の付近に7基の礎(いしうす)

が置かれた礎礎亭(てんがいてい)があり、「礎礎門」との呼称が生まれたという説が有力と言う。平家の落ち武者、景清がこの門に隠れて頼朝を襲うという「景清伝説」が能などで、江戸時代に演じられ景清門とも呼ばれるなど、長い時代を生き抜いた門である。門には大きな注連縄があり神仏習合を示している。東大寺縁起では749年に宇佐八幡宮から「八幡神」が勧請された。当初は東塔の西に祀られたが平家による南都焼き討ち後は現在の地に遷座した。後、石清水八幡宮や鶴岡八幡宮の創建に繋がり、八幡宮の全国的な広がりを見ることになった。転害会という祭礼が平安中期にはじまり門のすぐ裏に鼓阪という地名があり太鼓を叩きながら通ったなど興味深い話だった。(編集部)

岡田雅彦さん(橿原考古学研究所主任研究員)が、5月11日82名に「考古学から見た唐招提寺—発掘された創建期の伽藍」と題し、講演。



鑑真和上は渡海に失敗しながら754年来日。前半5年は東大寺に戒壇を築き後半5年間は唐招提寺で授戒活動、74歳の生涯。唐招提寺は新田部親王の旧宅。鑑真が存命中には寺院としては未完成で金堂の建立は、781年に伐採された材木が使用されていることがわかり、鑑真没後の建立。また金堂には中門に繋がる回廊があり、平安初期、平城上皇により旧宮の回廊が移築されたものだが地震により倒壊した。回廊の基壇跡や地覆石、据え付け孔など東西規模が78m、中央を壁で仕切った私寺でありながら格式高い複廊、講堂は平城宮朝集殿を移築、奈良時代末から長岡京時代の建立。西室(にしむろ)は、藤原清河の寄進で、どういう使われ方をしたか不明。西室の北端の鑑真が居住した開山堂付近から「招提寺」と書いた墨書土器が出てきた。幾何学紋の瓦は鮮やかな色彩が残っており、厨子などに屋内施設に使用されていた可能性が高い。寺院の全体の体裁が整うのは和上没後、平安時代の事だった。(編集部)

次回の平城京 歴史講座(いざない館)

7月9日: 鈴木浩(NPO平城宮跡理事長)

「棚田嘉十郎、平城宮跡保存運動の軌跡」

8月6日: 山口等悟(奈良市埋文センター学芸員)

「古墳時代後期の埴輪生産—菅原東遺跡」



【記事訂正とお詫び】

82号3面の奈良県平城宮跡事業推進室長中岡正一さんの記事『いざない館の南側買収がこのたび完了』は、講演で発言は一切なく、当方の思い込みで誤って掲載したものです。従って、ホームページ会報誌の当該部を直ちに削除し訂正いたしました。今後は、かかるとのことのないよう編集に十分注意いたしますとともに慎んでお詫び申しあげます。(編集責任者 大山達夫)

都城発掘調査部平城地区考古第一研究室研究員



1987 年京都府京都市生まれ。
2010 年立命館大学卒、
2012 年京都大学大学院文学研究科修士修了、
2014 年奈文研アソシエイトフェローを経て、

2019 年 4 月同研究室に採用、現在に至る。(2020 年京都大学文学博士号取得)

浦さんは考古学、文化財科学、民具が専門で原始古代の「木のものづくり」を明らかにすべく研究を進めている。木の道具は当時、欠かせなかった生活の道具で当時の生活を豊かに復元することができ、現代のビニール紐のようにサクラ樹皮を紐として使い、物作りに多用してきたことも分かりつつある。樹皮や葉を含め、どのように樹木を素材として木の道具を作ったのかを明らかにしたいと話す。

平城宮跡資料館のエコバッグ「平城宮の箸と匙」は売れ筋。土器の細かい文様の手ぬぐいでスケール(目盛り)が載っていたので測って見たら縮尺に合っていた。今回も木簡をモチーフにした試作品のカレンダー、T シャツ、人形(ひとがた)を披露していただき、それが“奈良時代に今を感じる”斬新さで今後の奈文研ミュージアムグッズの充実が期待される。

奈文研では、発掘調査や失われた遺物の復元研究などに取り組んでいるが、NPO 平城宮跡は 2020 年 1 月 11 日平城京歴史講座「西大寺金堂院とその周辺の発掘調査」の講演でお世話になっている。その旧西大寺境内発掘調査で 70 cm を超える掘立柱の発掘に巡り合い、2019 年紀要で報告できたのは研究の活力と嬉しそうに話す。また奈文研庁舎建設の発掘調査にも携わり、庁舎玄関ロビーに流れる発掘調査報告のナレーターとしても活躍している。

浦さんは、学生時代、日本古来の音楽に興味を持ち雅楽演奏で 箏(ひちりき) を奏でていたそう。平城宮跡近く住み、休日は博物館などに足を運ぶのが安らぎという。(編集部)

平城宮跡を“楽しむ”人たち

第 20 回 平城宮跡クリーン大会

4 月 16 日、平城宮跡クリーン大会は朱雀門ひろばに 200 名が集い、奈文研、管理センターの協力で実施しました。これまで参加した方は、復原された大極門(南門)も見れて、ゴミも少なくなり、平城遷都 1300 年祭の前と比べてきれいになったと汗を流していました。



奈文研 元平佳作研究支援推進部長の挨拶



遺構展示館駐車場にて

(環境保全部会)

第 2 回「にぎわい味わい結び会ひろば」

4 月 2 日、3 日に遣唐使船前ひろばで古代瓦の拓本づくりを実施し、13 名の参加者は拓本づくりを通して奈良時代に思いを馳せていました。(文化・ガイド部会)

新規規会員の紹介

(7 月 1 日現在) (50 音順)

安積孝雄さん、一箭順三さん、安藤英彦さん、小野田紀子さん、極本房代さん、河野健二さん、豊田香寿子さん、元平佳作さん、行広利法さん、森下謙三さんが入会しました。

＜ボランティア活動 入会お申し込み＞

❖ 個人が支援/活動。年会費 3000 円

❖ 法人が支援/活動。年会費 10000 円

編集後記

コロナ禍が一段落と思ったら、熱中症の到来。高齢者が凌ぎ易い明日を待っています。(萱鼠)